

事務事業名	青少年相談・街頭補導事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	教育部	青少年相談室	青少年相談係	服部 剛

1. 位置づけ・事務事業の期間				
総合計画体系	基本目標	人の健康・未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち		
	個別目標	こどもの豊かな心・健やかな体を育む		
	めざす成果	心身ともに健康に学校生活を送ることができている		
根拠法令	名 称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		無		
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度	事業期間
	昭和44年度			設定無し

2. 事務事業の概要					
対 象		総事業費（単位：千円）			
市内の青少年及びその保護者			3年度（決算額）	4年度（決算額）	5年度（予算額）
		事業費	60,694	60,520	69,995
		人件費	14,888	14,888	14,894
目 的		総事業費	75,582	75,408	84,889
青少年やその家庭が抱える課題の解消を図ります。		5年度事業費（予算額）財源内訳			
			国支出金		0
			県支出金		0
			市債		0
			その他		0
			一般財源		69,995
			合 計		69,995
手段、手法【実施手法：直営】		3. 活動内容			
・電話や来室（オンライン相談を含む）で相談を受け、課題解消に向けた支援を行います。 ・スクールソーシャルワーカー、青少年心理カウンセラーを中心に家庭環境の改善等の支援を行います。 ・青少年街頭指導員と青少年相談員による街頭補導を行います。 ・青少年の健全育成のため、社会環境実態調査・有害看板撤去活動等を行います。		活動指標1	名称	年間の新規相談受理件数	単位 件
			内容説明	年間の電話・来室新規相談件数の合計	
			指標値	3年度	4年度（当該年度）
				予 定	600
				実 績	644
成 果（効果・予測）		活動指標2	名称	年間の継続相談件数	単位 件
			内容説明	年間の継続相談件数の合計	
			指標値	3年度	4年度（当該年度）
				予 定	600
				実 績	755
課 題		活動指標3	名称	少年補導回数	単位 回
			内容説明	補導（指導・声かけ等）した回数	
			指標値	3年度	4年度（当該年度）
				予 定	300
				実 績	312
・家庭環境、発達障害など福祉的要因が絡む相談の増加に伴い、職員の資質向上、福祉・医療関係機関との一層の連携強化の必要があります。 ・学校における相談体制の充実を図るために、スクールソーシャルワーカーや青少年心理カウンセラーが学校と情報を共有し、相談ケースに対応する必要があります。 ・青少年を取り巻く社会環境を改善するために、社会環境実態調査や青少年の喫煙・飲酒防止活動などに継続的に取り組んでいく必要があります。		活動指標4	名称	有害看板等撤去活動回数	単位 回
			内容説明	関係団体と協力して実施した回数	
			指標値	3年度	4年度（当該年度）
				予 定	1
				実 績	0

4. 今後の方針等					
今後の方針等	2年度	I：現状のまま継続	3年度	I：現状のまま継続	4年度 I：現状のまま継続
	・学校と青少年相談室がより密に情報共有し、学校におけるケースの迅速かつ適切な初期対応に努めます。 ・教育相談員の研修や会議、教育相談アドバイザーの指導・助言を充実させ、教育相談員の資質と能力の向上に努めます。 ・青少年心理カウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育相談アドバイザー、指導主事による学校訪問の充実を図り、学校と密に連携して相談ケースの早期対応に努めます。 ・関係機関との密な連携を図り、様々なケースに対応できる体制づくりに努めます。 ・社会環境実態調査や青少年の喫煙・飲酒防止活動などに積極的に取り組んでいきます。				

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	2年度	3年度	4年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	青少年やその家族が抱える課題の解消は、市が関与して支援することが重要です。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	2年度	3年度	4年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	相談員の資質向上をさらに図ることで課題解決に向けた支援ができ、更なる成果が得られると考えます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	2年度	3年度	4年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	事業に必要な最低限の経費で実施しており、適正な水準であると考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	2年度	3年度	4年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	相談員を配置することにより、各種相談への対応や必要な指導がなされています。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	2年度	3年度	4年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	学校を通しての案内や広報、ホームページ等により当該事業に関する情報提供を行っています。

事務事業名	不登校児童生徒援助事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	教育部	青少年相談室	青少年相談係	服部 剛

1. 位置づけ・事務事業の期間			
総合計画体系	基本目標	人の健康・未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち	
	個別目標	こどもの豊かな心・健やかな体を育む	
	めざす成果	多様性を尊重し他者とともに生きるための社会性が育っている	
根拠法令	名 称		
当該事業の法令等による義務付けの有無		無	
事務事業の期間	事業開始年度	事業終了（予定）年度	事業期間
	平成03年度		設定無し

2. 事務事業の概要				
対 象		総事業費（単位：千円）		
不登校（長期欠席）児童生徒やその保護者、担任			3年度（決算額）	4年度（決算額）
		事業費	27,750	28,610
		人件費	7,444	11,912
目 的		総事業費	35,194	40,522
不登校児童生徒の社会的自立に向けて支援します。		5年度事業費（予算額）財源内訳		
		国支出金		0
		県支出金		0
手段、手法【実施手法：直営】		市債		0
		その他		0
		一般財源		30,483
		合 計		30,483

3. 活動内容				
活動指標1	名称	教育支援教室開室日数		単位 日
	内容説明	教育支援教室の年間開室日数		
	指標値		3年度	4年度（当該年度）
		予 定	205	205
		実 績	197	196
活動指標2	名称	教育支援教室行事回数		単位 回
	内容説明	教育支援教室が実施した教室行事の年間回数		
	指標値		3年度	4年度（当該年度）
		予 定	35	35
		実 績	19	39
活動指標3	名称	不登校児童生徒対応教職員研修会回数		単位
	内容説明	不登校児童生徒対応教職員を対象とした研修会を実施した回数		
	指標値		3年度	4年度（当該年度）
		予 定	0	3
		実 績	0	3
活動指標4	名称			単位
	内容説明			
	指標値		3年度	4年度（当該年度）
		予 定		
		実 績		

4. 今後の方針等						
今後の方針等	2年度	I：現状のまま継続	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続
	・学校主体の支援体制の充実を図るため、学校にスクールソーシャルワーカーや青少年心理カウンセラー、指導主事が訪問し、コンサルティング等を進めていきます。					
	・登校が難しい児童生徒に対しては、学校や不登校児童生徒支援員・教育支援教室職員等との情報交換を密にし、連携を取りながらきめ細やかな支援をしていきます。					
	・令和4年度に開室した不登校特例校は、長期不登校生徒の状況に合わせた学びの場であるとともに不登校の児童生徒への各学校の対応力向上に資するため、その取組を市内全小中学校へ発信し、後方支援をしていきます。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	2年度	3年度	4年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	社会的自立に向けた不登校児童生徒への支援は、市の重要な責務です。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	2年度	3年度	4年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	相談に対応する職員や指導員の資質向上を図るとともに、福祉・医療関係との連携を一層強化することで家庭環境の課題や発達に関する福祉的な要因が絡む複雑かつ専門性が必要とされるケースに対し、課題に向けた支援を行うことにより、さらなる成果が得られると考えます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	2年度	3年度	4年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	事業に必要な最低限の経費で実施しており、適正な水準であると考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	2年度	3年度	4年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	対象となる不登校児童生徒に対して、必要な支援等を実施するとともに、不登校特例校の開設等により必要な教育環境が整備されています。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	2年度	3年度	4年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	学校を通しての案内や広報、ホームページ等により、当該事業に関する情報提供を行っています。

事務事業名	青少年相談員連絡協議会支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	教育部	青少年相談室	青少年相談係	服部 剛

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	人の健康・未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち		
	個別目標	こどもの豊かな心・健やかな体を育む		
	めざす成果	心身ともに健康に学校生活を送ることができている		
根拠法令	名 称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		無		
事務事業の期間	事業開始年度 昭和44年度		事業終了（予定）年度	事業期間 設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費				(単位：千円)			
交付先：青少年相談員連絡協議会		3年度（決算額）		4年度（決算額）		5年度（予算額）		
	事業費	65		69		62		
	人件費	7,444		7,444		7,447		
目 的	総事業費	7,509		7,513		7,509		
青少年の非行防止活動の推進を図るため、青少年相談員連絡協議会の運営を支援します。	5年度事業費（予算額）財源内訳							
	国支出金		0					
	県支出金		0					
	市債		0					
	その他		0					
	一般財源		62					
手段、手法【実施手法：直営】	合 計		62					
	3. 活動内容							
	活動指標 1	名称	青少年相談員連絡協議会会議回数				単位	回
		内容説明	総会及び理事会の回数					
		指標値		3年度	4年度（当該年度）		5年度	
			予 定	13	13		13	
実 績			14	13		――		
成 果（効果・予測）	活動指標 2	名称					単位	
		内容説明						
		指標値		3年度	4年度（当該年度）		5年度	
			予 定					
			実 績				――	
課 題	活動指標 3	名称					単位	
		内容説明						
		指標値		3年度	4年度（当該年度）		5年度	
			予 定					
			実 績				――	
・ 青少年の非行防止を推進する青少年相談員連絡協議会の活動を継続していくには、次世代の担い手が不可欠です。そのためには、活動だよりの発行、市民まつり等での啓発活動などを通じて、より広く継続的に市民へ周知する必要があります。	活動指標 4	名称					単位	
		内容説明						
		指標値		3年度	4年度（当該年度）		5年度	
			予 定					
			実 績				――	
・ 青少年相談員連絡協議会の活動を充実させるため、青少年の実態をしっかりと把握し、それに即した研修会の内容を検討・実施する必要があります。		名称					単位	
		内容説明						
		指標値		3年度	4年度（当該年度）		5年度	
			予 定					
			実 績				――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	2年度	I：現状のまま継続	3年度	I：現状のまま継続	4年度	I：現状のまま継続
	・ 青少年相談員の活動を、市民にさらに周知するために、活動だよりの継続的発行とともに、大和市民まつり等での啓発活動などを通して、広報していきます。					
	・ 青少年相談員のよりよい活動を継続するために、青少年の実態に即した研修を行い、相談員の実践力の向上を図ります。					